



こあら村 いつもの1日…特別な1日… のぞいてみてみて！ 紙上見学会

月・水・金のぽけっとぱ～く、第4火曜日のユーカリ茶屋…

どんな方にも気軽に利用してほしいから、こあら村は基本的に細かいプログラムを用意していません。「いつ行ってもいいんですか?」「何歳から利用できますか?」というご質問をよくいただきますが、お互いに気持ちよく過ごせることに配慮していただければ、特別な決まりはありません。見学して体験して、“私流”の利用方法を見つけてくださるとうれしいです。

今回は、紙上でこあら村を見学していただきますよう。

月・水・金 10:00～16:00 ぽけっとぱ～く

こあら村の核となる「子育て交流ひろば」活動。利用に条件などはありませんが、未就園児親子に利用しやすいとの感想をいただいています。最近では、お昼をはさんでくつろぐ方が増えています。耳を傾けると色々な会話が…

このあいだ、パパと蒲田にいたね。

歯医者さん、どうしてる?

「かして」「どうぞ」「またあそぼ」

こあら村は、広すぎないところがいいみたい。子どもを見守りながら、親同士で話せるのがちょうどいいのだそうです。

子どもたちも、最初ははづかり合いもあったけれど、この

にわか音楽隊で合奏だ!

ころは譲り合う場面も見られ、その成長ぶりににんまりしちゃうスタッフです。

ちょっとお楽しみ企画 好評だった「プチ手芸講座」

「30分で作ろう!ビーズの指輪

(11/28) リース(12/10)」

子どもが遊んでいる間に、皆さんすてきな作品を仕上げている

した。おしゃべりしながら作るの楽しい!

ぼや木の記



其の2

申年に、さるかにの巻



品川に新幹線が止まり始めた。また日本列島の時間の距離が縮まった。その昔、新橋から横浜まで開通した陸蒸気に合わせて、「鉄道唱歌」ができた。その詞の品川辺りの景色に『遠く車窓に薄霞む 山は上総か房州か』という箇所があった。かなり年配のエッセイストが、そこを『ウスが住む』と合点していたという。言わずと知れた「さるかに合戦」でかにに味方してさるを懲らしめた白のことである。

昔、母と話していて、「小さいとき、あそこに白が住んでいたんだと思っていた」と母がヒョコッと言い、「アラ私も」と大笑いしたことがある。これは、単なる遺伝子の問題ではなく、その頃の大方の子どもの発想だったのだろう。

子どもの発想は、大人の型にはまらない自由奔放さがある。高層ビルとスモックに薄霞む空の下で、子どもたちは何を見聞きし、何を思い、何を発想しながら大人になっていくのだろう。楽しくもあり、チョッピリ責任の恐さもある、こあら村ではある。 村長拝

第4火曜日 ユーカリ茶屋 (11/25)

11月はピアノの神谷都志さん、声楽の馬場睦子さんによる「軽い体操と音楽を楽しむ会」でした。

当日は椅子に腰掛けた形で行いました。まずはストレッチ体操をし、身体がほぐれたところで、発声練習。普段出すことのない大きな声が出て、スカッとしました。ドイツの小さな竖琴の音色を聴き、気を静めたあと、鉄琴の1つの音を各自担当して、「きらきら星」を演奏。次にわらべ歌やカンツォーネを歌い、最後は馬場さんの「アペマリア」を聴きました。ちょうど見学にみえた久が原特別出張所長と地域振興係長に習いたての「サンタルチア」を披露する一幕も。喉の乾いたあとは、おいしい和菓子とお茶で和やかなひとときを過ごしました。今回の講師のお二人はボランティア、椅子は久が原特別出張所よりお借りしました。こあら村の活動は地域の皆様に支えられていることを実感しています。

12月はお休みしました。1月27日(火)午前10時30分より正午まで「軽い体操と音楽を楽しむ会」を予定しています。お楽しみに。

【のべ利用者数】

(単位:人)

大人 子ども

11月 56 64

12月 74 74



編集後記

★村長の原稿を受け取って、「陸蒸気」がわかりませんでした。(おかしょうき・汽車) 明治初期の言葉だそうです。夫には「学がない」と笑われました。スタッフ間で多世代交流が図れましたあ♡(邦)

★2ヶ月に1度発行の「こあら村つうしん」ですが、次号の原稿を用意するのはまだまだだと思っていると、あっという間にその時が来ています。こあら村の様子がおわかりいただけるでしょうか?みなさんが楽しみにして読んで下さると嬉しいです。(朝)